



ときどき入院、ほぼ在宅

2014年4月に行われる診療報酬改訂が出ました。団塊の世代が後期高齢者を迎える2025年にむけ、急性期病院まかせではなく、かかりつけ医をはじめ地域で医療を担うようにとの厚生労働省の意図が伝わってきます。今までは、軽症の患者さんは、通院して外来に通い、病状の重たい患者さんは、入院することで対応してきた医療の根本が問われることとなります。これを朝日新聞は、“ときどき入院、ほぼ在宅”と称しました。

ほぼ在宅という表現は、すごいなあと思いつつ、あらためてどんな社会であれば、ほぼ在宅と言えるのかと考えました。今まで病院で受けていた医療をそのまま在宅でも受けることができれば良いという発想は、わかりやすいかもしれません。たとえば、人工呼吸器など、きわめて専門的な医療機器を必要としても、自宅で継続することができれば、入院しなくても在宅で過ごすことができるでしょう。しかし、“ほぼ在宅”は、このような高度医療の実践を意味するものではありません。あたりまえの生活を続けていく中で、自然に老いていく過程を意識しながら、介護と医療の両面で人生の最期まで支援していくことを指すと考えます。

言葉では簡単に言いますが、実際には大きな障害がいくつもあります。一番は、地域に看取りまで支援をする医療・介護を支える担い手が少ないことです。通院が困難な人が、在宅で医療や介護を受けながら過ごすことは、この数年でだいぶ広がりを見せました。しかし、看取りまでとなると、苦手意識から、お迎えが近くなったら119番通報にて救急車でどこかの病院に搬送をすればよいと考える医療・介護従事者は少なくありません。24時間の対応ができる開業医の少なさも課題です。勤務医時代には、携帯のオンコールなどで縛られることがいやで、自由な時間がほしいために開業した医師にとって、かかりつけ医として関わっていたとしても夜中や祭日に看取りで呼ばれることを嫌がるは自明です。“看取り”という、人生の大切な最期に関わることのできる医療・介護の人材育成は、めぐみ在宅クリニックとして最も意識をおいて取り組んでいきたいテーマです。

もう一つの課題は、市民側にあると考えています。今までは健康なことがあたりまえで、病気になることや、まして死ぬことは良くないこととして、病院にいったら、治してもらえばよいという意識があったかもしれませんが、もちろん、人生の半ばで病いに倒れてよいと言っている意味ではありません。長寿があたりまえの社会になり、認知症をはじめ様々な理由から、健康なときと同じように過ごすことが、年を重ねるときに困難になっていきます。今までできていたことがやがてできなくなり、そして、静かに最期を迎えていく経過を、どこで、どのように過ごしていくのかを、国民全体で考えて行く必要があるでしょう。

来る3月10日に、瀬谷区公会堂にて一般市民向けの緩和ケア講演会とシンポジウムの企画を行いました。テーマは、人生の最期を穏やかに過ごすために、です。避けることのできない人生の大切な最期にむけて、どのような準備と配慮が必要になるのか、あるいは現場ではどのような支援がなされているのかを、紹介する予定です。やがて来る多死時代にむけ、ときどき入院、ほぼ在宅がどのように展開できるのかを、多くの人に紹介していきたいと考えます。ご期待下さい。 院長 小澤竹俊

高級ステレオセット寄贈

2013年12月4日にご自宅で永眠された大江康弘様のご家族より高級オーディオセットの寄付がありました。団塊の世代の生え抜きであり、競争社会のエリートとしてこだわりを持って生きてきました。金融関係の仕事を通して大きな仕事をする一方、定年後には、社会の役に立つような仕事をしたいと願っていました。今回、在宅で家族と最期まで過ごしたい希望の中、めぐみ在宅クリニックとの縁がありました。オーディオには、私も多大なる関心を寄せており、診察の中で、タンノイの自慢のスピーカーがあることを誇らしげに話されておりました。そして、亡くなる3日前、休まれていた2階のベッドから、私のために、わざわざ1階まで降りてきて、聴かせて頂きました。不思議なことは、大好きなクラシックではなく、なぜかジャズボーカルのTake it with meをかけて頂いたのですが、大江さんにとって最期の曲となりました。臨場感のある粒だった音と繊細な楽器の響きが伝わり、鳥肌が立ったことを思い出します。亡くなったあと、ご家族より、めぐみ在宅クリニックの理念に共感して頂き、小澤はじめ、クリニックに関わるスタッフの皆さんの疲れが少しでも癒されることを希望され、大切にされてきたご自慢のオーディオセットの寄贈がありました。タンノイ製キングダム15、アキュフェイズのプリアンプ、メインアンプ、さらにCDセットは、D/Aコンバーターとのセット、さらには御自慢のクラシックCD集などです。遺志を尊重し、大切に聴いていきたいと思っております。有り難うございました。



補足 訪問を終え、ときどき夜にクリニックで聴く事があります。少し大きめの音にして座ると、まさにコンサートホールにいるような感覚になります。クリニックにお越し頂いた時には、是非、試聴ください。

診療実績

	2006年-2010年	2011年	2012年	2013年	2014年 1月	総計
訪問回数	10934	4907	5299	5281	450	26871
自宅永眠	557	203	163	164	20	1107
施設永眠	36	9	23	28	1	97
在宅(自宅+施設)	593	212	186	192	21	1204
病院永眠	125	61	63	38	1	288